

共生・公正・創造



JR連合

東日本ジャーナル

<http://www.jrtu-east.org/>

JR東日本労働組合

〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号

TEL (NTT) 03-3453-2107 (JR) 057-2290

発行者/渡辺 求 編集者/久保田 勉

1部20円 (但し組合費を含む)

迎春



撮影者：高津 秀俊

JR労働運動の大同団結をめざし、自らの変化をチャンスに前進しよう！

中央執行委員長 渡辺 求



新年おめでとうござい
ます。昨年相次ぐ自然災害
や異常気象などに見舞わ
れた一年でしたが、JR
の安全安定輸送の確保に
全力を尽くされた組合員
と家族の皆さんに心から
敬意を表します。鉄道の
安全とは、社員一人ひと
りの不断の努力とチーム
プレイで築き上げられる
ものであり、その基本は
相互の信頼と責任です。
働くということの価値観
や理念が企業に深く浸透
し、その中で形成される
慣行やルールが企業文化
を形成し、その上で培わ
れた労働運動や労働組合
の価値観、行動規範、活
動のすべてが労働文化を
形成します。企業文化と
労働文化は表裏一体であ
り、企業の発展と社員の
幸せを追求するために労
使関係が形成されます。
自分だけが良ければと組
合差別を会社に強要して
きた東労組の風潮や労働
文化が、今日の歪んだ労
使関係を形成してしまし
た。職場における仕事を
巡る価値観や技術、企業
倫理こそが安全輸送の基
本でなければなりません。
安全輸送を確保する
ことは当然のこととし、
グループ会社を始め、協

力会社・パートナー会社
も含めたJR東日本全体
の死亡事故・重大労災撲
滅をめざして取り組んで
まいります。

2015春闘の課題で
す。アベノミクスの成
長戦略で「賃金は上がっ
た」と声高に喧伝してき
ましたが、実質賃金は15
ヶ月連続マイナスを記録
し、「景気の好循環」は
一部の大企業にとどまっ
ており、多くの国民は景
気の好循環を実感してい
ないばかりか、急激な円
安による輸入食料品や燃
料などの物価が上昇し、
家計を圧迫しています。

連合は第69回中央委員
会で「すべての組合が月
例賃金にこだわり、2%
以上のベア要求」を掲げ
ることを決定し、中小・
非正規を中心とした「底
上げ・底支え」「格差
是正」に全力を尽くし、
「デフレからの脱却」と
「経済の好循環実現」を
目指す方針を確認しまし
た。

JR東日本の連結、単
体とも3期連続で増収
増益、連結営業収益、連
結・単体の経常利益と
四半期純利益が過去最高
となりました。この成果
は、経営側の営業戦略と
社員の努力により作り上
げられたものだとは確信し
ています。

この好業績で得られた
原資をいかに有効活用
し、企業のさらなる発展
と社員の生活向上に資す
るかが労使に問われてい
ます。日常業務の中で社
員のスキルとモチベーシ
ョンを向上させ生産性を
拡大し、その成果につい
て労働組合は、社員に対
する配分の拡大を求めて
経営陣と対立するという
原則に立ち、しっかりと
春闘を闘う決意です。

具体的には、産別統一
要求を基本に連合2%要
求との整合性、そしてユ
ニオン要求に対する組織
の求心力を強化する立場
から、第2回中央委員会
でベア要求を決定しま
す。

昨年末の総選挙は、戦
後最低の投票率を記録し
て自民・公明両党で32
5議席を獲得し、自民党
単独でも絶対安定多数を
確保する結果となりました。
私たちが支持した民
主党は微増にとどまり、
前回の衆院選からの党勢
回復には至りませんでした。
争点とならなかった
特定秘密保護法や集団的
自衛権の行使容認、原発
再稼働など、憲法改正か
ら徴兵制へと進む危険な

政権でもあります。政権
交代可能な二大政党制の
一翼を担う野党の中心と
して、民主党が魅力的な
選択肢を示すために、主
体性を強化しなければな
りません。

また、今回の総選挙の
闘いの総括を各級機関が
しっかりと行い、今春に
行われる統一地方選挙に
おける組織内・推薦候補
の勝利を目指して各級機
関の奮闘を要請いたしま
す。

JR東日本労働組合の
結成から一年が経過しま
した。私たちの目標は、
JR東日本におけるJR
労働運動の大同団結と一
元化を目指して、組織の
強化・拡大の闘いを強化
しなければなりません。
自由で民主的な労働運動
をJR東日本に作り上げ
るために、自らが進化
し、自らの変化をチャン
スとして前進しあうこと
をお誓い申し上げ、新年
のご挨拶といたします。



衆院選重点候補二氏当選

民主党11議席増も与党に

3分の2議席許す

第47回衆議院議員選挙の投票が12月14日施行された。民主党は公示前の62議席から11議席増やしたものの73議席の獲得に止まった。一方で経済対策「アベノミクス」継続の是非を最大の争点に掲げた自民党及び連立を組む公明党は公示前に並ぶ325議席を確保した。その一因は民主党が自民党への対立軸となり得なかったことによる。野党第一党としての責任を自覚するとともに、国民目線に立った政策を示し、与党の対立軸として国民から信頼を得られる基盤を構築していかなければならない。東日本ユニオンは今次選挙において、最重要候補に6名を推薦し、闘いを進めてきた。その結果、野田佳彦氏(千葉4区)、田嶋要氏(千葉1区)、長島昭久氏(東京21区)が当選を果たした。しかし、民主党代表海江田万里氏(東京1区)、山花郁夫氏(東京22区)、細川律夫氏(埼玉3区)は惜しくも当選に届かなかった。一方で投票率は52.66%と戦後最低と

なった。来年予定されている第18回統一地方選挙に向け、組合員の政治参画意識を促し投票率の向上を果たすとともに、一度労働組合の役割と組

千葉4区

当選 野田佳彦 民主 119,193
 比当 木村哲也 自民 67,600
 齋藤和子 共産 24,275
 西尾憲一 無所属 19,510



野田 佳彦

千葉1区

当選 田嶋 要 民主 84,755
 比当 門山宏哲 自民 76,937
 田沼隆志 次世代 26,322
 吉田直義 共産 18,182



田嶋 要

東京21区

当選 小田原潔 自民 83,984
 比当 長島昭久 民主 82,351
 吉岡正史 共産 35,598



長島 昭久

全てのJR連合組合員が一致団結し、共に前進しよう!

JR連合会長 松岡 裕次



明けまして、おめでとうございます。日頃よりJR連合運動へのご理解、ご協力に感謝致します。加えて、年末年始輸送や昨年末の衆議院議員選挙への対応等に重ねて御礼申し上げます。年頭にあたり、当面する課題と決意を述べたいと思います。

一点目が安全の取り組みです。JR連合は「すべてのJR関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」を最終目標に取り組みんでいます。重大労災は減っていないのが現状です。特にグループ会社や協会の社員が受傷するケースが多く、JR・グループ会社・協力会社の三位一体で安全を創り上げていくことが必要です。

加えて、1077人の方々が犠牲となった福知山線列車脱線事故から今年の4月で10年を迎えます。事故を知らない若手社員も多くなり、労働組合としても事故の記憶を風化させないよう取り組みむことが肝要です。

二点目が政策課題実現の取り組みです。JR連合は短期的な課題を毎年の「交通重点政策」として議員懇・議員フォーラム・関係省庁などへ働きかけを行う一方、中長期的な課題は3つのプロジェクトチーム(PT)を立ち上げ、検討を重ねてきました。

提言を「有言実行」すべく、関係者と連携を図っていくと同時に、残る2つのPTについても結論が得られるよう議論を継続します。

三点目が政治活動の取り組みです。昨年末の突然の衆議院解散・総選挙によって、水を差された感がありますが、今年4月には統一地方選挙が施行され、多くの組織内議員が改選期を迎えます。地域公共交通を担うJRにとって、自治体との連携は、ますます重要になります。組織内議員の皆さんに自治体とJRの「架け橋」になっていただき、地域活性化にむけて共に汗をかいていきたいと考えています。

四点目が組織の取り組みです。JR連合は目下「10万人組織」の達成に向けて取り組みを進めています。そのことが連合の提唱する「1000万人連合」と「働くことを中心とする安心社会」の実現につながっていくものと確信しています。組織強化・拡大は一朝一夕で実現するものではありません。民主化闘争の取り組みを含めて、地に足をつけた運動を愚直に推し進めていきます。

最後に2015春季生活闘争の取り組みです。輸送型の製造業は不安で一定の利益を確保しているものの、内需産業は

地本名	日付	時間	場所
大宮地方本部	1月5日		地本事務所
横浜地方本部	1月10日		地本事務所
秋田地方本部	1月17日	16:00	秋田・イヤタカ
仙台地方本部	1月17日	13:30 16:00	新春講演会 山形テルサ 旗開き メトロポリタン山形
高崎地方本部	1月17日	13:30	高崎市労使会館
新潟地方本部	1月17日	13:30	新潟・東映ホテル
八王子地方本部	1月17日	11:00	八王子労政会館
千葉地方本部	1月17日	11:00 12:00	オークラ千葉ホテル
水戸地方本部	1月20日	10:40	水戸エクセルイベントホール
東京地方本部	1月24日	11:00	ホテルラングウッド
長野地方本部	1月24日	12:30	J A長野県ビル
盛岡地方本部	※2月の地方委員会に集約する。		



小林業務部長の交渉経過報告に耳を傾ける参加者

内山実行委員長の挨拶でシンポジウムが開会し、第一部「JR東日本

北陸新幹線開業を控え、未来交通を考えるシンポジウムを開催

北陸新幹線金沢延伸まつた12月13日、長野県で残すところ3か月に迫った12月13日、長野県Aビルにおいて「長野県の未来交通を考えるシンポジウム」を開催し、長野新幹線金沢延伸が与える長野県公共交通の今後」が110名を超える組合員・家族の参加のもと開催された。



講演をいただいた柳沢吉保教授

長野支社の現状と課題」と題し、小林実行委員長より問題提起があった。この間の団体交渉の経過を踏まえ、現在の状況・今後の課題を明確にし、「社会における公共交通の役割・使命とは何か」「労働組合の果たすべき役割とは何か」について参加者全員で考える機会となった。

第2部は、国立長野高専環境都市工学科柳沢吉保教授により「鉄道を活かしたまちづくり」北の線の利用促進に向けた取り組み」と題し特別講演をいただいた。講演では新幹線延伸に伴ってのまちづくりやその影響について、様々な視点からお話を頂き、鉄道で働く私たちが新たな角度から鉄道を考える機会となった。最後に、「安全最優先の鉄道文化と社会から信頼される労働組合を創りだそう」「長野県の未来交通を切り拓こう」というアピールを全体で確認し、閉会した。



本年もよろしくお祝い申し上げます

- 中央執行委員長 渡辺 求
- 中央執行副委員長 井田 和男
- 鈴木 仁
- 野上 隆浩
- 白井 幸一
- 書記長 生田 俊勝
- 中央執行委員 長澤 朋亮
- 加藤 浩
- 中村 幸治
- 佐藤 孝昭
- 角谷 巧生
- 岡村 和幸
- 西沢 弘
- 瀬戸 義則
- 久保田 勉
- 稲阪 修
- 特別執行委員 慶島 譲治
- 会計監査員 永沢 守
- 小宮 信胤
- 嶋田 信胤